



## 日本で最初の下水道はいつできたの

### 明治17～18年に東京・神田でできた

日本では江戸時代までに、大きな都市では用水路や排水路ができており、川によごれも少なかったため、本格的な下水道の建設はおくれていました。

明治になって、東京や大阪の人口がふえましたが、1872年（明治5年）に銀座で大火があり、これを機会に、街の両側の街路に下水溝が作られました。1877年（明治10年）に東京にコレラが発生し、下水道のたいせつさがいわれるようになりました。そうして、明治17～18年に、オランダ人技師の意見により、東京・神田に下水道ができたのが、日本での下水道の初めです。

### 日本の技術では、1899年（明治32年）に仙台で

このころ、横浜の外国人が住んでいた場所にも、レンガ作りの下水道ができました。しかし、コレラなどの感染症で死亡する人が数十万人も出るなどしたため、下水道が急がれました。明治23年に、上水道を積極的に建設する法律ができましたが、上水道といっしょに作られなければならない下水道は、なかなか進みませんでした。

日本の技術者による下水道は、最初は仙台で1899年（明治32年）にとりかかり、約10年後に完成しました。これと同じ時期に、広島、大阪、名古屋、東京などの都市でも、建設工事が始まりました。

しかし、軍事を重んじた政策により、なかなか下水工事まで手が回らず、本格的に下水工事が進行し始めたのは、第2次世界大戦のあとになります。（監修・保岡 孝之）

